

肺がんセンター開設のご案内

Lung Cancer Center

National Hospital Organization

OSAKA
TONEYAMA
MEDICAL
CENTER



独立行政法人 国立病院機構 大阪刀根山医療センター



Hello!

肺がんセンターを開設しました

我が国において死亡原因のトップはがんであり、がんと診断された患者さんの中で肺がんは男性で3位、女性で4位となっています。また、手術で完全に取り除ける患者さんは比較的少なく、抗がん剤や放射線治療など総合的な治療が必要とされるがんの一つです。

当院は、北摂地域随一といえる症例数の肺がん患者さんの診療を行っており、実績を評価され大阪府からがん診療拠点病院(肺がん)の指定を受けています。肺がん診療に関わる各部門が一層緊密に連携して質の高い診療・治療を提供するため、2023年1月に新たに肺がんセンターを設置しました。



急速に進歩する肺がん治療を
リアルタイムに提供します

院長 奥村 明之進

放射線診断・病理診断・遺伝子診断・薬物治療・外科治療・放射線治療・がん免疫療法・緩和医療などあらゆる分野で肺がん診療は急速に進歩しています。当院には専門医(内科・放射線科・外科・麻酔科・病理など)や認定看護師(化学療法・緩和ケアなど)が多数在籍しております。多職種連携のチーム医療を円滑に行い、最新の肺がん治療をリアルタイムに患者さんに届けるために肺がんセンターを開設しました。職員一同で患者さんに寄り添う医療を提供しながら、肺がん治療を安心して受けていただけるよう努力する所存です。

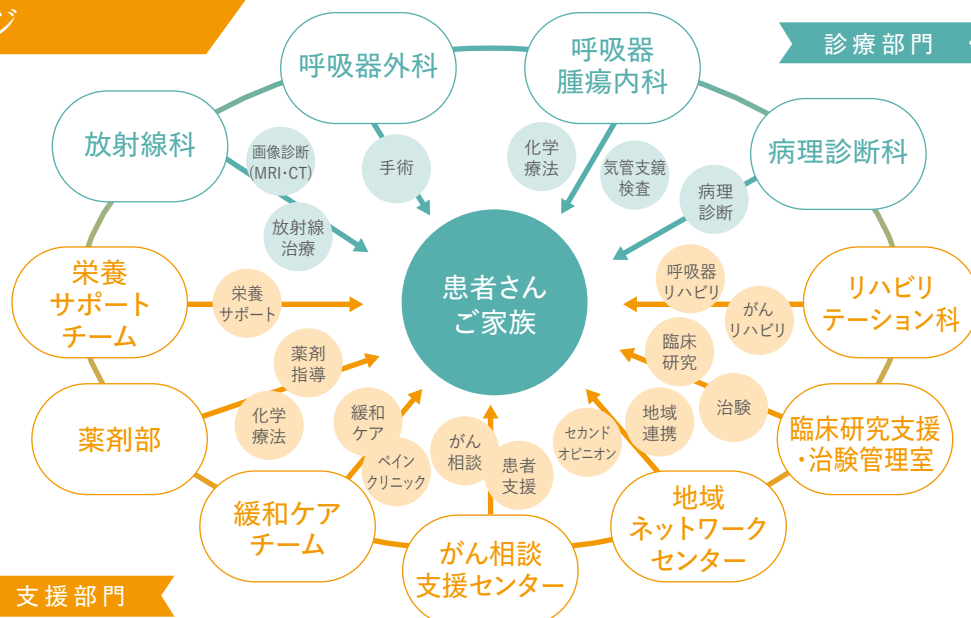


全ての患者さんに
専門的な肺がん治療を

肺がんセンター長
副院長 竹内 幸康

当院では肺がん診療のさらなる向上・推進のため肺がんセンターを開設いたしました。患者さんのあらゆる不安を取り除き、満足する治療を受けられるように、医師や看護師はもとより、薬剤師、リハビリテーション、栄養、地域ネットワークセンター、臨床心理士などの多職種が有機的に関わって、きめ細かく治療を支えています。患者さんの病状や生活環境は一人ひとり異なりますが、“肺がんセンター”はすべての患者さんが安心してより専門的な肺がん治療を受けられるように、安全で良質な医療環境を提供いたします。

肺がんセンターにおける 診療イメージ



肺がんセンター部門紹介

診療部門

OSAKA
TONEYAMA
MEDICAL
CENTER

呼吸器腫瘍内科

当科では、肺がんの診断から終末期に至るまでの一貫した診療を実施しており、30余年にわたり6千名を超える呼吸器腫瘍、特に肺がんにおける専門的治療を行ってきました。

北摂広域よりご紹介いただく呼吸器悪性腫瘍患者は年間およそ300例と地域随一です。

内科での診断困難例は呼吸器外科とも連携して早期肺がんの診断・治療を行っており、検査入院や短期から長期までの入院治療・緩和治療など様々な治療・療養に対応しています。



抗がん剤を中心とした薬物療法も近年大幅に進歩するとともにとても複雑になっており、府内でも有数の治療経験を有する腫瘍内科医が最先端の情報を踏まえて診療にあたっています。

外来化学療法室

リクライニングチェア5台とベッド3台で運用しています。
まず入院で治療を導入し、外来化学療法に移行します。

当肺がんセンターは標準治療(現在の保険診療の範囲内での最良の治療)の提供を原則としていますが、1つとは限らないため各部門スタッフが集まりすべての患者さんの治療方針を検討します。それを踏まえて担当医がそれぞれの患者さんやご家族と十分に相談しバランスのとれた最適な治療を考えていきます。

超音波気管支鏡(EBUS)を用いた気管支鏡検査



肺がんセンター組織図



センター長
竹内 幸康
【副院長・呼吸器外科】



副センター長
森 雅秀
【統括診療部長・呼吸器腫瘍内科】

呼吸器腫瘍内科

呼吸器外科

放射線科

病理診断科

がん相談支援センター

緩和ケアチーム

薬剤部

リハビリテーション科

栄養サポートチーム

地域ネットワークセンター

臨床研究支援・治験管理室

診療部門

支援部門

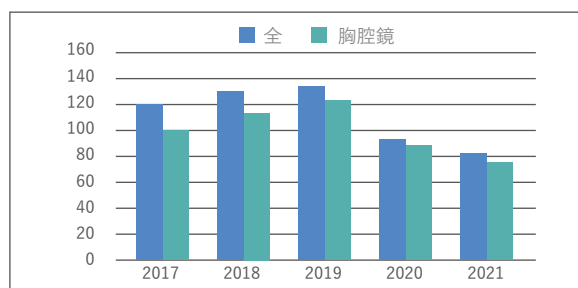
呼吸器外科

呼吸器外科では肺・縦隔・胸膜・胸壁の外科的疾患を扱っています。肺がんの手術は、根治性を損なうことなく、安全性に最大限配慮し、経験豊かな呼吸器外科医がほとんどの手術を内視鏡手術（胸腔鏡下手術）で行っています。また、2019年から一つの操作孔で行う単孔式手術も行っています。病理病期別の術後生存曲線、生存率（他病死を含む）は下記の通りです。



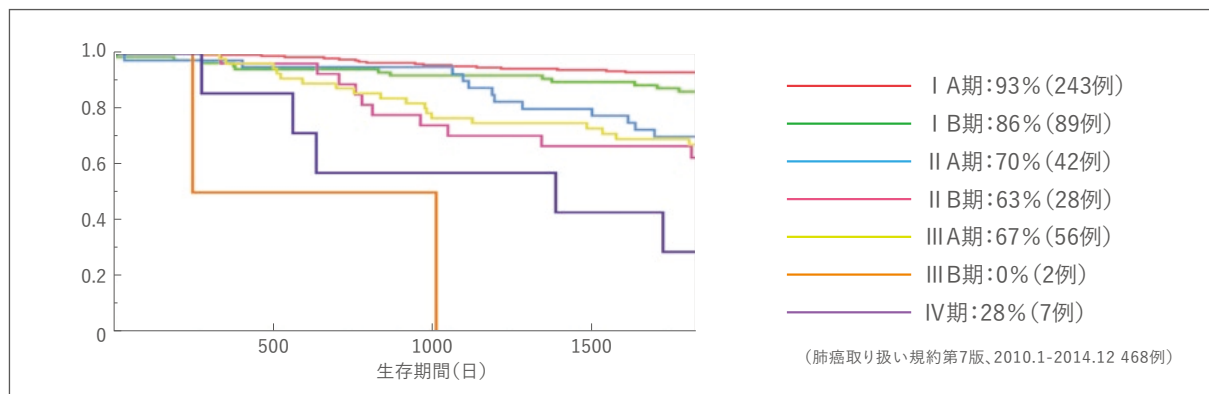
ハイビジョンシステムによる胸腔鏡下手術

● 肺がん手術に占める胸腔鏡下手術



胸腔鏡下手術後の創部(単孔式)

● 肺癌術後生存曲線と術後5年生存率



放射線科

放射線治療とは、細胞が分裂して増えるときに必要な遺伝子に作用してがん細胞を消滅させたり、少なくしたりします。当院肺がんセンターではリニアックと呼ばれる外部から放射線を照射する装置を利用して肺がんの治療を行っています。手術によって切除することなくがんに対しての治療効果を期待でき、臓器の機能を残したまま治療可能なことが



放射線治療の利点です。

放射線治療はがんを治すことを目的として単独で実施されることもあります。薬物療法や手術など、他の治療と併用して行われることもあり、骨に転移したがんによる痛みを和らげたり、神経を圧迫してしびれや痛みの原因になっているがんを治療するときに行われます。

放射線治療は、放射線治療医、放射線治療専門診療放射線技師、放射線治療品質管理士、診療放射線技師、看護師などさまざまな専門の医療職種からなるスタッフが協力しチームとなって行っています。

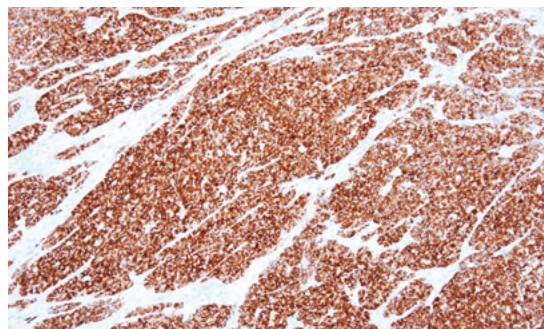
治療室の風景(Clinac iX バリアン社)

病理診断科

気管支内視鏡や手術で採取された組織や細胞材料から標本作製、どのような病気であるかを診断、検査しており、病気の診断確定や病変の広がり、病気の性質等から治療方針や治療効果が判断されます。肺がん手術の多い当院においては、手術中の迅速組織診断が概ね年間100件以上、気管支鏡や胸腔鏡による肺生検は年間250件以上の実績があり、その結果に基づいて適切な術式や治療法が選択されています。



臨床各科でのカンファレンスによる治療方針の決定や、蓄積された症例を基に各診療科にて行われている臨床研究にも積極的に参加しています。



ALK遺伝子検査(高感度IHC法)

肺がんセンター部門紹介

支援部門

がん相談支援センター

がん患者さんの生活や治療・療養に伴う疑問や不安など一緒に整理し理解できるようお手伝いします。病気や治療のために生活における困りごとがある場合、ご負担をなるべく減らせるよう専門の看護師、相談員が相談・お手伝いし、必要に応じて他の職員、他の機関・施設と連携します。

こんな時にご相談ください

- がんについて知りたい
- 治療方法について確認したい
- 療養生活のことについて知りたい
- 介護保険や福祉・社会保障制度について知りたい
- 悩み・困りごとを聞いてほしい
- 医療費、生活費が心配
- 家族のことが心配
- 仕事が心配
- セカンドオピニオンを受けてみたい
- 緩和ケア病棟や施設を探したい
- どこに相談したら良いかわからない など

緩和ケアチーム

緩和ケアとは重い病を抱える患者さんやご家族、からだや心のつらさをやわらげて生活をより良く支えていくケアであり、緩和ケアチームはそのための専門チームです。

肺がんと診断されたその時(あるいは診断前)から、治療中、そして人生の最終段階までチームが一丸となり、患者さんの不快な症状を少しでも減らし、不安を和らげるお手伝いをさせていただきます。病状経過により経済面・仕事・介護・療養場所など生活における困りごとが出てきた場合はがん相談支援センターと協働しお手伝い、対応させていただきます。



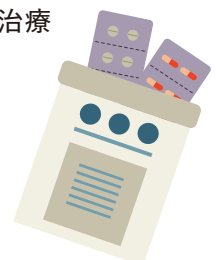
患者サロン

患者さん、ご家族にくつろいでいただけるスペースがあります。

薬 剤 部

肺がんの薬物療法は、肺がんの種類により内服薬や注射薬(1種類または複数種類組み合わせ)による治療を行う場合があります。非常に複雑になっています。抗がん薬治療を受ける患者さんが安全に治療を行えるよう、がん専門薬剤師や外来がん治療認定薬剤師を中心に抗がん薬の投与量の確認や、副作用の予防対策を行っています。また、抗がん薬の副作用が発現した

場合には、症状に合わせたお薬(吐き気止め・便秘対策など)を医師へ提案し、使用方法についても説明しますので、抗がん薬治療に関してご不明な点があれば薬剤師にご相談ください。



リハビリテーション科

「がんのリハビリテーション研修」を履修したスタッフが、在宅復帰に向けた体力維持・回復目的のためのリハビリテーションを行っています。

肺がん手術予定の患者さんは、手術による痛み等の影響で呼吸が浅くなり痰がうまく出せず肺炎等の合併症を起こす可能性が高くなります。

そのため、手術前から排痰や呼吸法の指導を行い、手術後においては、できるだけ早く体を起こし寝ている期間を短くすることで合併症を予防し、スムーズな回復を図っていきます。骨転移や脳転移等による障害に対しても、生活ならびに病期に寄り添ったリハビリテーションを目指しています。

栄養サポートチーム

栄養サポートチーム(Nutrition Support Team: NST)とは、栄養について専門的な知識、技術を持った医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・言語聴覚士などで構成された専門のチームです。

NSTは患者さんに寄り添い、症状・体調に合わせた食べやすいメニューと一緒に考えたり、少な

い量でも高栄養のジュースやゼリー等を提案させていただき、少しでも身体に栄養を取り入れることができるようサポートさせていただきます。

栄養(食事)、体重のことで気になることがありましたら、NSTまでお気軽にご相談ください。

地域ネットワークセンター

肺がんや慢性呼吸器疾患、神経・筋疾患等の専門病院として地域の関係機関と連携し、患者さんが安全に安心して療養生活が送れるように支援します。



こんな時にご相談ください

- 外来受診・検査の予約
(※患者さん、ご家族からの直接予約は賜っていません。)
- 入院生活の説明・内服中の薬・サービスの確認
- 退院支援
(在宅療養に必要な情報、転院・施設入所の支援etc…)
- 医療福祉相談
(医療費や生活費の相談、身体障害・難病・介護保険などの社会保険制度、在宅療養etc…)

※ご希望の方は外来管理治療棟1階の窓口にお越しいただくか、病棟でお申し付けください。電話でのご相談も承ります。問い合わせ先等は裏面をご覧ください。

臨床研究支援・治験管理室

治験は健康保険で認められていない新しい薬剤(抗がん剤・免疫チェックポイント阻害剤)や組み合わせ、投与方法の変更を検討するもの、臨床試験はその時点での標準治療に関して改めて再検討するものです。肺がん診療に携わる専門施設として国内の多くの施設あるいは製薬企業と協力し、患者さんの協力のもと肺がんの医療の発展に寄与したいと考えています。いずれも当院

等の倫理委員会で安全性と科学的・社会的妥当性が認められた治験や臨床試験について、十分にご説明をさせていただいたうえで患者さん・ご家族に同意をいただいた場合にのみ実施します。同意されなかった場合においても最適と考えられる標準治療を行いますのでご安心ください。

治験や臨床試験への参加をご希望の際は、現在診療を担当されている医師を通じてご連絡ください。

予約申込・問い合わせ先

地域ネットワークセンター

予約専用連絡TEL

06-6853-2090

FAX

06-6844-8778

● 予約受付時間／【月～水・金曜日】9:00～18:00 【木曜日】9:00～17:00

※上記受付時間以降のご依頼に対する返信は翌営業日以降になります。

大阪刀根山医療センター ホームページ

新たな情報等各種情報を掲載しております。

<https://toneyama.hosp.go.jp/>



診察受付時間のご案内

初診患者

8:30～12:00

再診患者

8:30～11:00

交通アクセス



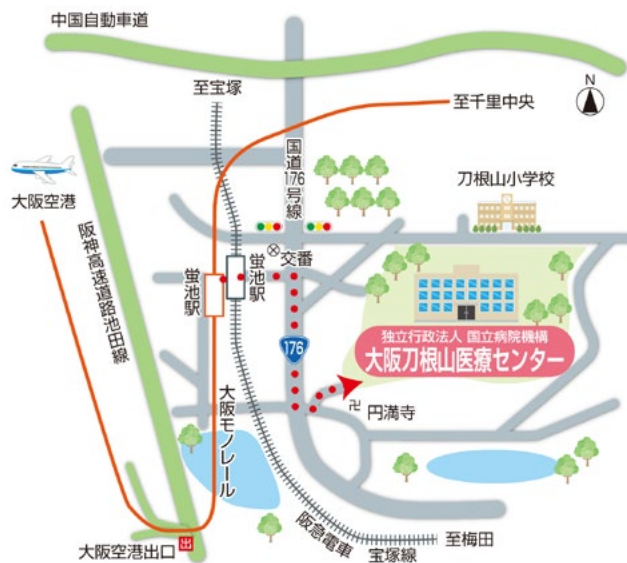
公共交通機関をご利用の場合

大阪モノレール・阪急宝塚線
「蛍池」駅下車、東口から徒歩 5 分



お車をご利用の場合

阪神高速11号池田線(下り)
大阪空港出入口から約 5 分
中国自動車道中国池田IC(上り)
中国豊中IC(下り)から約 5 分



独立行政法人 国立病院機構 大阪刀根山医療センター

〒560-8552 大阪府豊中市刀根山5丁目1番1号
TEL:06-6853-2001(代表)

<https://toneyama.hosp.go.jp>

大阪刀根山医療センター 肺がんセンター

検索